



『TOKYO北区時間2018』に惹かれて～このまちの一步奥へ

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

東京都23区の中で方角が区の名称となっている唯一の区・北区。東京商工会議所北支部が発行している『北区時間』を研究室の大澤先輩からいただいたことがきっかけで、十条・赤羽・王子を一巡りしてきました。このまちの一步奥へを探しに……。

□まち、そのものが人情劇～十条

昨年11月11日。秋晴れの中、JR埼京線十条駅からまち歩き探訪がスタート。駅を降りてすぐに東京三大銀座の一つ、十条銀座商店街があります。銀座と名がつくがレトロな感じと人々の活気があふれており、どこか居心地が良い懐かしい気持ちになる商店街で、食べ物から雑貨まで様々なものが揃う場所です。

十条銀座通りを少し歩くと「篠原演芸場」があります。昭和26(1951)年に開館し東京で最も古い本格劇場で、現在は都内に三軒しかない大衆演劇専門の劇場です。地元民に愛され地域に根づいており、平成10(1998)年には十条の中央商店街という名前を演芸場通りに変更した程。時代劇、剣劇、人情劇と芝居の幅は広く是非一度足を運んでいただきたい場所です。

□話題の赤羽のこんな近くに身近な自然が……

赤羽は昔ながらの飲み屋街が多く立ち並ぶイメージ。ポスト吉祥寺とも言われているとか……。混沌とした駅前から15分も歩くと「岩淵水門」に到着。もともとは荒川と隅田川の流れを制御するための水門でしたが、今ではその役目を終え歴史的な建築物として保存されています。レトロな赤い色の水門の壁が印象的で水門の上は歩道になっています。

近くにある荒川知水資料館では荒川や荒川高放水路について詳しく学ぶことができるので、現在は子どもたちの学習の場や人々の憩いの場として親しまれています。河川敷には、BBQエリアやサイクリングコースなどもあり、自然の中でリフレッシュした休日を過ごすことができるのも魅力です。自然にも恵まれた、もう一つの魅力を感じに、赤羽に是非足を運ばれてみては……。

□徳川吉宗が開拓した王子・飛鳥山

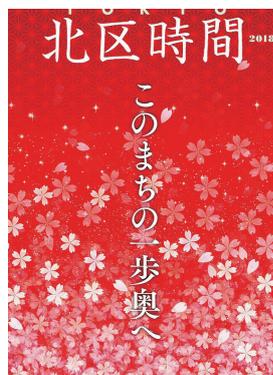
飛鳥山の桜は、八代将軍・吉宗が開発した、江戸時代の都市近郊観光地であることは知られています。

また、公園内には「渋沢資料館」があり渋沢栄一翁の活動を紹介するため1982年に開館。かつて渋沢翁が住んでいた旧渋沢邸跡地にあり、資料の収蔵・展示に加えて、旧渋沢庭園に残る大正期の2棟の建築「晩香廬」「青淵文庫」の内部公開もしています。まち歩き探訪のその日は、渋沢翁の命日で、引き寄せられたのかもしれませんが。ちなみに当日は、入館料無料でした。

エリア毎に特徴がある北区。まさに、“このまちの一步奥へ”の意味がわかった気がした一日でした。また、別の北区にふれてみたい……次は、田端、鉄道・都電、そしてやはり赤羽の赤提灯での“おでんと出汁割り”でしょうか!?

担当

(田子吹武季・大竹遼・大澤亮介(大下ゼミOB・現在(一社)東京北区観光協会)



昭和26年に開館した「篠原演芸場」。十条中央商店街の人情の象徴ではないでしょうか。



岩淵水門は、歴史を感じることでできるモニュメント。河川敷のBBQも楽しめるうー!!



北とびあの展望台からみた飛鳥山。将軍・吉宗も見ることのできなかった俯瞰景。鉄分濃度の高い人は、ジオラマをみているような気分に……。